

## ありきたりに生き延びよう



愛知県里親会連合会・専門里親  
西岡道治

私は長久手の自宅で里親を始めて15年になります。

皆さんと同じように、色々あって、親元を離れて暮らさなければならないお子さんたちと、自分の家で一緒に暮らしてきました。

数日の短い出会いもありましたし、10年以上一緒に暮らしている子もいます。

私たちは、何かの専門家ではありません。

里親の家の、お父さんお母さんは仕事に行ったり、家で家事をしていたりする、まあ、ありきたりの人たちです。そして、皆さんたちに「元気であってほしい」「幸せであってほしい」と強く思い続けている人たちです

強いて言えば、家でありきたりに暮らすことの専門家ですと、偉そうに言っておきましょう

ありきたりに暮らすということは、実はそれなりに努力のいることです。

毎日、朝起きてご飯を食べ仕事に行く。

職場では、時には退屈な繰り返しにも耐え、人間関係にも気をつけて、家に帰ったら、明日のことを考えて、あまり夜更かししないように寝る。

これは結構大変なことで、特に若い時は「絶対無理～」と言いたくなるのもよく分かります。

毎日同じことの繰り返しなんて、私も若い時には「絶対無理」「そんな生活意味がない」と思っていました。

でも最近思うことは、とにかく「ありきたりの生活」をして生き延びてきたから、今、嬉しいことや楽しいことに、いっぱい巡り合うことが出来ました。

嫌なこと・つらいこと・悲しいことがあった時、「もうヤメ」とすべて放り投げてしまえば、それで終わりです。気を取り直して、また始めれば、それまでの「嫌なこと・つらいこと・悲しいこと」が、かえって良い経験として参考になります。

大事なことは、何があったかではなく、あったことを自分がどう受け止めて、次どうするかです。私たち里親は、皆さんと同じような境遇の子どもたちと、そういう生活を毎日続けて来ています。もし私たちが、何らかの形で皆さんの応援が出来たら大変うれしいです。

今 ROOKIES の皆さんと話し合っ、私たちに何が出来るかを一生懸命考えているところです。施設から、社会に羽ばたいていこうとする皆さんを、里親の私たちが、何か応援出来たら、どんなに素晴らしいかと思っています。

今日、どんな事があっても、どんな失敗をしてもいいです。

次はちゃんと頑張ろうという思いをもって「ありきたりの生活」をして、とにかく生き延びて行きましょう

生き延びれば必ず道は拓けるのですから。